

2022年度CUC市民活動サポートプログラム自己点検・評価

評価項目	CUC市民活動サポートプログラム 実施組織による自己分析	自己分析に基づく社会貢献分科会の評価
1.開設の趣旨について	<p>受講生アンケートの結果として、満足度は「満足した」「やや満足した」が89%であった。また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人との繋がりを大切にしながら同じ趣味や興味を持つ仲間作りのために色々な手段、手法があるということがわかった ・今の自分が何を大切にして活動をしているのかを見つめ直すことができた ・受講者の話を良く聞いてくれて、慣れない課題や発表でもさりげないフォローがあり、安心して受講できた ・クラウドソーシングが初めての体験だったので試行錯誤だったがこれからの時代の働き方として必要であることは理解できた ・価値観の違いも楽しめるような市民活動をしてみたいと思った <p>評価メンバー(社会貢献分科会メンバー)からも、3で述べる交流の場が充実していることから満足度が高かったと思われる旨の発言があった。</p>	<p>開設の趣旨を十分に満たしていると判断できる。</p>
2.教育の成果について	<p>2022年度は全体で7科目(必修7科目)開講しており、正規履修生11名のうち10名が一定の成績を収め履修証明書を手にした。</p> <p>※1名については、自身の活動の都合により欠席が多かったこと、レポート未提出により交付対象とならなかった。</p> <p>受講生アンケートの結果として、理解度は「よく理解できた」「大体理解できた」が84%であった。</p> <p>また、以下に記載したコメント等、受講生から声が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクや受講者同士の関係性構築、プログラムのアウトラインの共有などをコンパクトに行っており、とても勉強になった ・概念整理と事例分析の反復により、非営利組織の背景と現状を深く考えることができ、とても勉強になった ・ファシリテーションの時間割り振りなど、実践で役立つ事を教えて頂き、今後の司会進行に活かしていきたい ・地域活動をするにあたり、データはもちろん、自分の足で歩き、見て確かめて知ることが重要だと再認識した 	<p>教育の成果について十分な教育効果があったと判断できる。</p>
3.受講生に対する支援について	<p>講義に関する支援については、指導教員が適宜対応を行った。</p> <p>また、Microsoft Teamsへの参加方法や欠席の際の教員への質問の方法等、受講生からの運営面での問い合わせについては担当職員が適宜対応した。</p> <p>また、6月、12月、3月(9月は台風により実施中止)に交流会を開催し、地域活動発展のための受講生同士・修了生・地域・教職員との交流の機会を設定した。</p> <p>次年度以降はいちかわTMO講座受講生との交流など更に交流の機会、幅を広く展開していく予定である。</p>	<p>評価項目について十分な受講生に対する支援があったと判断できる。</p>
4.自己点検の環境について	<p>2020年度より各科目の終了後及び全授業の終了後に授業アンケートや総合アンケートを実施している。また、外部の方々を招聘し開催している社会貢献分科会において、アンケート結果等を参考にプログラムに関する意見を頂戴し、必要に応じて次年度以降のプログラム運営に反映させることとしている。</p>	<p>十分に自己点検の環境について整備されていると判断できる。</p>
5.広報活動について	<p>2022年度は以下の広報活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学ウェブサイト掲載 ・本学公式SNSからの情報発信 ・いちかわライフネットワーククラブウェブサイト掲載 ・ちいき新聞イベント情報サイト掲載 ・自治体広報誌への情報掲載 ・各種自治体でのパンフレット設置 ・各種自治体で発行するメールマガジンへの掲載 ・地域連携フォーラムでの告知 ・学生、教職員への告知(ポータルサイト・メール) ・過去受講生、イベント参加者等へのメール配信 ・交流会での告知 ・本学教職員、外部講師、受講生による勧誘活動 ・教育後援会役員会での告知 ・「元気いちかわ会」での告知 <p>結果、定員数10名のところ、幅広い年齢層、さまざまな地域から正規履修生11名、部分履修生1名と定員を超えた申し込みがあった。</p> <p>次年度以降は全体的に広報スケジュールを更に前倒しして行う予定である。また、地元企業への告知活動も強化する予定である。</p>	<p>十分に広報活動を行ったと言える。</p>
6.施設等の設備について	<p>対面授業時には机稼働式の教室を使用することで、双方向型授業やグループワーク等に対応している。</p> <p>また、一部の講義で発表の際の音が聞き取りづらい状況が発生したため、ワイヤレスマイクを毎講義用意し、必要に応じて教員、受講生が使用した。</p>	<p>十分に施設等の設備について適切に運用されていると判断できる。</p>